

エグゼクティブサマリー

私たちは危機に瀕しています。住みやすい気候、貴重な生物多様性、繁栄する経済、そして無形の文化的重要性を支えている森林生態系は、依然として巨大な圧力にさらされています。2030年までに森林の減少と劣化を食い止め、回復させるという2030年目標を達成する見込みは依然として立っていません。

2022年には、世界の総森林減少面積は660万ヘクタールに達し、2030年までに森林減少を停止させるために必要な道筋から21%上回りました。また、原生熱帯林の消失面積は410万ヘクタールに達し、10年以内に原生林の減少を停止させるために必要な道筋を33%上回りました。この後退は、2021年に若干の進展があったものの十分とは言えなかった森林目標の達成をさらに困難にするものです。

熱帯の森林減少地域での森林再生は過去4年間で急速に増加しており、これは森林が攪乱から回復する能力が非常に高いことを示していると同時に、少なくとも一部の森林減少地域が伐採後に放棄されていることを示しています。森林の再成長は確かに好ましいことですが、成熟した森林が有する生態学的特徴が再構築されるには数十年かかる可能性があります。世界的に森林回復が拡大している証拠が見られる一方、世界各地の森林回復に向けた官民の取り組みは明らかに透明性を欠いており、進捗状況を確認することが妨げられています。

いくつかの地域では、健全性の高い森林が憂慮すべき速度で失われ続けています。これら地域には、ラテンアメリカの熱帯およびそれ以外の地域、アフリカの熱帯以外の地域、北アメリカやヨーロッパの北方林や温帯林が含まれます。森林劣化の状況を適切に評価し、必要な対策につなげるための包括的なデータは、特に北部の多くの森林において不十分となっています。

希望は失われていません。50カ国を優に超える国々が、2030年までに自国の森林減少を停止させる方向に向かっています。例えば、森林減少をグロス（総量）ゼロにする軌道に唯一近づいている地域であるアジアの熱帯地域では、インドネシアとマレーシアが森林減少の継続的削減を達成しています。

先進国と開発途上国の双方が、政治的意志と献身的行動による変革の力を実証してきました。彼らの努力によって、森林減少率が大幅に、時には継続的に削減してきました。

依然として深刻な課題が残っています。残念ながら、これらの個々の成功例では、重要な森林生態系全体で進行中の大規模な森林消失と劣化を打ち消すことはできません。さらに、ある国での進捗は、別の国の生態学的危機から切り離すことはできません。ある地域での森林減少の削減は、森林減少を引き起こすリスクのあるコモディティ生産のアウトソーシングによるもので、他の国や生態系への森林減少のリーケージを伴うかもしれません。グローバル化した経済においては、すべての国が森林の消失に対処する責任を負っているのです。

私たちは厳しい現実に向き合わなければなりません。世界が、「通常の（business-as-usual）」森林利用と破壊を続けることはもうできないのです。資源採取と消費に依存する経済システムは、地球の生命維持システムを構成する9つのプラネタリー・バウンダリー（地球の限界）のうち6つをすでに不安定化させており、その中には土地利用の限界も含まれています。¹

先進的な国や企業が模範を示しており、世界の他の国・企業はその例に従う必要があります。代替的な開発モデルを広く、変革を恐れずに受け入れてゆかなければ、世界は持続可能な開発、気候、森林に対する野心的な目標を達成することはできません。

各国政府は、森林に関する「通常の（business-as-usual）」対応を再定義する必要があります。森林に関する企業の行動、情報開示、説明責任を義務付け、森林の保護、持続可能な管理、回復を奨励し、森林の真の価値を認識する代替的な経済的アプローチを開拓する自主的な取り組みを奨励する規制および財政上の環境を構築することが必要です。

お金が物を言います。資金の流れを追っていくと、森林に関する目標の優先順位が依然として低いことが痛いほど明らかになります。世界的に見ても、森林に対する公的資金の投入は年間わずかに22億米ドルに過ぎず、これは他の世界的投資に比べてごくわずかです。実際、サッカースタジアムを2つ建設するにも足りません。ロンドンのトッテナム・ホットスパー・スタジアムの建設費は約11億米ドルかかり、²改装中のバルセロナのカンプ・ノウ・スタジアムの予算は16億米ドルに達しています。³

先進国は、熱帯林の減少を防ぐために多数の取り組みを発表していますが、これらのプログラムが提供するインセンティブは、森林目標達成の課題を克服するには十分とは言えません。大半の開発途上国は、自国の開発経路を森林目標と調和させるために必要な大胆な改革を開始するために、依然として大きな支援を必要としています。

同時に多くの先進国も、国内の森林を適切に保護することに苦勞しています。かけがえのない原生林であっても、森林の質を劣化させるような森林管理や開発を補助金や法律により可能にし、奨励さえしているのです。

そして、土地の保有権や自由意思に基づく事前のインフォームド・コンセントなど、先住民や地域コミュニティの権利を保護するための公約の多くが、依然として単なるリップサービスに過ぎないという悲しい事実が残っています。先住民や地域コミュニティは、自分たちの権利を確保し、効果的に彼らの領土を管理するために必要な資金のほんのわずかし受け取っていません。その一方で、これらのコミュニティは、森林破壊によって最も直接的な被害を受けているにもかかわらず、自らの土地を守るにあたり、常に暴力や犯罪にさらされています

森林に対する現在の資金と必要な資金との間には、大きな隔たりが生じています。

金融機関、企業、および政府は、資金の使い方を自身の発言に調和させる必要があります。森林を破壊するのではなく、森林を育てる活動に投資するのです。そして、先住民や地域コミュニティなど、最も効果的な森林管理者に直接投資することも重要です。

責任を共有する必要があります。森林の消失と劣化という悲劇を逆転させる責任は、すべての国が共有しています。変化をもたらすために何が必要かを実証してきた地域があります。例えば、2023年、ブラジルは森林伐採に関する

規制を強化し、取り締まりに向けて急速に舵を切りました。また欧州連合は国内および国際的な森林政策において目覚ましい前進を見せています。

民間セクターでは、市民社会の支援を受けた少人数の企業リーダーが、サプライチェーンのモニタリングやトレーサビリティ、サプライヤーとの協力などのベストプラクティスを先駆的に取り入れ、サプライチェーンを通じて森林減少や生態系の転換にさらされるリスクを緩和・軽減しています。民間セクターが意義のあるスケールで「通常の (business-as-usual)」活動を変えることは可能です。

金融機関は、投資を通じて森林減少や劣化、生態系の転換にさらされるリスク、つまりビジネスに対するリスクと、人々や環境に対して及ぼす可能性のある悪影響の双方への認識を高め、行動するようになってきています。

しかし、これらのリーダーすべての全体的な影響は、以前として極めて限定的なものです。彼らが管理しているのは、世界の市場と資源のごく一部に過ぎません。**Forest 500**が評価した森林リスクのあるコモディティのサプライチェーンに関わる主要企業の大多数は、サプライチェーンから森林減少を排除するための明確で包括的、かつ野心的な方針を持っていません。また、大半の金融機関は、融資と投資を対象とする森林リスクポリシーを定めていません。農産物の生産を通じて熱帯雨林減少を引き起こす最もリスクの高い企業に対し、民間の金融機関は2022年だけでも**6.1兆米ドル**を提供したと**Forest 500**は推定しています。数多くの野心的な公約が存在するにもかかわらず、多くの企業や政府は森林目標を前進させる取り組みを限定的なものにしています。

ほとんど何もしてこなかった政府、企業、金融機関の大半も、今のところ説明責任を免れています。温帯林および北方林における森林の劣化と世界的な森林再生の進捗に関するデータから、森林に関する公約を行った主体による活動や成果に関する積極的な報告に至るまで、森林に関するデータと透明性のある報告が体系的に不足しています。

データと透明性がなければ、前進は困難なままで、関係者は約束に関して説明責任を果たしません。

政府、企業、金融機関は、自らにスポットライトを当てる必要が
あります。これらの組織は、森林と生態系の状態、経済と開発の優先順
位を森林と一致させるための計画と戦略、森林に関する公約実施の進捗状
況に関するデータ収集、積極的なモニタリング、および透明性のある積極
的な報告に投資する必要があります。

森林宣言評価のパートナーは、以前に次のように述べました。2030年
の森林目標達成に向けて世界の進路を変えるには、開発の道筋、資金の流れ、
そしてガバナンスの有効性と実施を根本的に変革する必要があります。

私たちは経済モデルを、森林を切り拓くことで得られる表面的で短期的な利益
ではなく、森林がもたらす長期的な利益に基づいて評価できるように再構築す
る必要があります

先住民族や地域コミュニティは、開発と森林管理の代替モデルの効果を一貫し
て実証してきました。先導する政府、企業、金融機関は、政策や慣行を変える
ことが可能であることを示してきました。

世界全体が彼らに倣い、「通常の」ビジネスを再定義し、**2030年**に
向けて世界の進路を変えてゆく必要があります。

¹ Richardson, K., et al. (2023). Earth beyond six of nine planetary boundaries. Science
Advances, 9(37), eadh2458. <https://doi.org/10.1126/sciadv.adh2458>.

² StadiumDB : Tottenham Hotspur Stadium,
http://stadiumdb.com/stadiums/eng/tottenham_hotspur_stadium.

³ Mallick, A. (13 septembre 2023) « Barcelona's Estimated Stadium Revenue from the new
Camp Nou. » TechnoSports. [https://technosports.co.in/barcelona-stadium-revenue-
return-upon-camp-nou/](https://technosports.co.in/barcelona-stadium-revenue-return-upon-camp-nou/).